
IS～インフィニット・ストラトス～別の世界の自分に憑依した青年の大活劇

かたがわ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS〈インフィニット・ストラトス〉別の世界の自分に憑依した
青年の大活劇

【Nコード】

N 6 5 9 3 Y

【作者名】

かたがわ

【あらすじ】

ある日謎の穴に愛車と一緒に吸い込まれて別の世界の自分に憑依してしまった青年は、“IS〈インフィニットストラトス〉”という女性にしか操作できない兵器を使える唯一の男性になってしまった。

そこで青年はいったい何を見るのだろうか。

第一話・プロローグ（前書き）

とあるスレのキャラの設定を使用させてもらう許可を取ったので投稿させてもらいます。

ただ兄貴達はまだ登場しませんのであしからず。

第一話・プロローグ

場所・何処かの草原

「秋夫よ……なぜ此処に？」

「たまたま此処に寄っただけだろ」

街外れの草原に寝転がっている青年は気だるそうに隣に居る青年“御筆秋夫”に喋りかけた。

「……何かスリルな事が起きないのかね？」

「……それってフラグだろJK」

青年は露骨に“どっかの異世界に飛ばされるフラグ”を

立ててしまったりした。

現時点ではそんなことは青年は知らないが。

「さて戻るか……秋夫はどうするんだ？」

「……俺も戻るに決まってるんだろ……純夏的に考えて」

彼ら達は立ち上がり、自身の愛車の置いてある場所に向かった。

「ついでに俺は“氏家達也”っていう名前だから」

「誰に話してるんだろ」K

「そりゃ読者様に決まってるんだろぅが」

「おk、把握しただろ」

場所・日の出峠

「おっ、達也、久しぶりじゃねえか」

「よっ、ランサー、久しぶりだな」

「まったく、風邪なんか自慢のドリルでぶち抜け！」

「無茶言つなカミナ、お前みたいにドリルなんかもってねーし
どう風邪をぶち抜けばいいんだよ」

「おい達也、風邪は最速で、美しく治すもんだぜ」

「お前も無茶言つなクーガー」

「ははっ、やっぱり俺達は揃わなきゃだめだろ常識的に考えて」

最速で治せといってるのは、スピード狂でアルター能力という物を
持つ

世界を縮める男（笑） “ ストレイド・クーガー ”

JK（常識的に考えて）といっているのは、達也を悪魔の道（笑）に引きずり込んだ

我らがリーダー “ 御筆秋夫 ”

ドリルで風邪を治せといってるのは、この中の常識人であり（マジで）気合で天元突破する男 “ カミナ ”

最初に達也に話しかけたのは、どつかでは伝説だった英雄

“ ランサー ” （ランサーは偽名）

実は我らが主人公？、達也は二日前までは風邪を引いていたのであった。

それが治り、ようやく復活したのであった。

「さて、久々に走りますか

」

ピキーン

「んっ！今何かフラグがたったような……」

「この感じは……まさか！」

もう既に立っているフラグを感じた達也は後ろを振り向いた。

そこには……。

「なんか、穴が在るんだが……」

そこには があった。

全てを吸い込む丸い穴。

その に、愛車が吸い込まれてゆく。

「あつ、おい！俺の車が！」

「くそつ、俺たちも引つ張られているぜ」

「くつ、デメえら！大丈夫か！？」

「何とか槍にしがみ付いてる！が、そろそろヤベエ！」イチチチチ
「くそが！あの穴め、俺の車を吸い込もうとしやがって……」テガイタイ

「しっかりトイレいっとけばよかったぜ……」ハラガイテエ

「こつなりや」

「こつなりや、車の中に乗れ！
どうなるかわからないが、逝くだろ」K！」

「「「おうつ!!」「」「」

秋夫の掛け声と同時に吸い込まれかけている車に乗り達也以外、車をバツクした。

「んっ、どうした達也?!」

「半分吸い込まれてやがる。

こうなりやヤケだ!突っ込んでやる!」

自殺行為だ。

秋夫はそう叫ぼつと窓から顔を出した。
だがもう既に

「うおおおおおおお!!!!」

に突っ込んでいた。

「「「たつやあああああ!!!!」「」「」

今この瞬間、氏家達也はこの世界から消えた。

キャラ設定

達也「はい、今回はキャラ設定を公開しようと思います」

秋夫「俺達のキャラ設定はあるスレからの設定を使ってるだろ」

達也「キャラ設定を使わせて頂きありがとうございます」

氏家 達也

今作の主人公。IS学園の1年1組に所属。クラス代表。

7月5日生まれ。身長は172cm。直死の魔眼所持。

使用車種“MR2・AW11”。

元走り屋で、日本中の峠を制覇していった“プロジェクトD”のダウンヒル担当の

エースドライバー。

引退した後も実力は衰えない、というより前よりも強くなっている。

今作では謎の穴に愛車ごと吸い込まれ、何らかの影響で別世界の幼い自分に

憑依してしまった。

頭の回転は早く、どんな危機でも必ず解決の糸を引っ張る。

力もチートで、太陽系をも吹き飛ばす程の力を持っているが、普段はリミッターをつけている。

イケメンに加え人の心の機微に鋭く、境界線の無い優しさで女性をときめかせる

言動や行動を見せる事から学園の内外を問わず数多くの女子に好意を寄せられている。

が、やはり主人公よりしく鈍感である。

御筆 秋夫

“プロジェクトD”リーダー。既に結婚済。20歳。

使用車種“スカイラインBMR32GT-R”。

達也を悪魔の道こと走り屋の道に誘った奴で、2chのやらない夫と性格が似ている。

というか顔も形もほとんど同じだと思ってくればいい。

クーガー達いつもつるんでいる。

前は日の出峠では最速の名を冠しているが、達也に破られている。

「巨乳メイドはロマンだろ常識的に考えて」

ストリート・クーガー

CV：津久井教生

文化的二枚目な兄貴。プロジェクトDヒルクライム担当エースドライバー。世界三大兄貴。

使用車種“ホンダS2000”だが「ラディカル・グッドスピード」という

アルター能力を使用して車を再構成し、速く走らせることができる。
(ただ、すつごくゴツイボディになる)

元暴走族特攻隊“ホーリー”の隊長。「速さ」と「文化」に異様な
までの執着を見せる奴。

彼にとって速さは美であり、見事な早口で喋る。

速さを求め続ける誰もが認める最速にして、最強の兄貴。

そして、愛すべきバカ。

「俺が選んだ俺の道だ、それを最速で突っ走って何が悪い！」

カミナ

CV：小西克幸

プロジェクトDメカニック担当。天元突破兄貴。婚約済み
使用車種“マツダ・RX-8”

物事は全て「気合い」で片付くと信じている精神論者。

髪型ととんがった真っ赤なサングラス、上半身に彫られたタトゥー
が目印。

プロジェクトDの中では常識人だが常識人ではない。

自らの命をかけてまで檄をかけ、死んでも檄を加える姿は正に漢。
そしてバカ。

「お前を信じる！俺が信じるお前でもない、お前が信じる俺でもな
い、お前が信じるお前を信じる！！」

ランサー

CV：神奈延年

プロジェクトDメカニック担当。敏捷性に優れた槍使い。通称・ランサー兄貴。

真の名前はケルト神話の光の皇子クーフリーン。結婚済。

使用車種は“スバルインプレッサ・GC8 STEIバージョン”

根は実直で、口は悪いが己の信念と忠義を貫く、英霊らしい英霊。趣味は魚釣りやナンパだが、ナンパするたびに嫁さんに殴られる。またもや今作では秋夫達プロジェクトDメンバーと一緒にタイムスリップする。

「どーもー！青タイツですー！」

達也「こんな感じかね？」

カミナ「オウオウオウオウ！言葉が年寄りじみてるぜ

だから茶飲みジジイって呼ばれてるんだよ」

ランサー「おいおい、ソレは関係ねーだろ」

達也「さすがランサー、常識人だな」

秋夫「で、俺たちはいつ登場するんだろ？」

早く登場させないと……無理やり登場してやるだろ」

達也「まあ落ち着けて」

クーガー「大は小を兼ねるのか速さは質量に勝てないのかいやいや

そんなことはない速さを

一点に集中させて突破すればどんな分厚い塊であろうと
砕け散る！」

達也「いやだから落ち着けて……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6593y/>

IS～インフィニット・ストラトス～別の世界の自分に憑依した青年の大活劇

2011年11月21日06時48分発行